

## 平成 22 年度臨時（第 1 回）理事会議事録

日 時： 平成 22 年 4 月 10 日（土） 10：30～15：00

場 所： 岸記念体育会館 1 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

山崎達光、河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松真（委任：山崎達光）、前田彰一、青山篤、  
児玉萬平、斉藤渉、鈴木國央（委任：山崎達光）、小山泰彦、松原宏之（委任：前田彰一）、  
山田敏雄（委任：山崎達光）、倭千鶴子、庄司一夫、豊伸吾、小山利男、外山昌一（委任：  
児玉萬平）、柴沼克己（委任：前田彰一）、坂谷定生、山下記誉、吉田豊、宮崎史康（委任：  
前田彰一）、奥村文浩（委任：前田彰一）、中村公俊、吉留容子、金井寿雄（委任：山崎達  
光）

以上 27 名、内委任状 9 名

出席監事：浪川宏、栗原博

以上 2 名

欠席監事：高木伸学

以上 1 名

オブザーバー：大村雅一ルール副委員長、豊崎謙広報委員

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 9 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 19 条に基づいて、山崎達光会長が議長となり、平成 22 年度臨時（第 1 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、庄司一夫、吉留容子の両理事が任命された。

（山崎会長挨拶）3 月評議委員会において評議員各位から活発なご意見をいただいたことを受けて、理事会のあり方を検討すべく、今理事会では自由討議時間を設けている。理事会各位から本質的な議論をいただきたい。平成 22 年度 1 回目開催における重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

### <審議事項>

#### 1) 特別加盟団体の加盟申請

前田専務理事から資料に基づき、特定非営利活動法人ニッポンセールトレーニング葉山の特別加盟団体申請について説明があった。平成 12 年から任意団体として活動、

平成 15 年に特定非営利活動法人（NPO）として認可されている。特別加盟団体としての要件は整っているとの発言があった。

坂谷理事から、決算報告収支額が丸い数字が気になるとの確認の質問があった。前田専務理事より、決算報告は別途詳細が提出されているとの説明があった。

秋山副会長から、NPO 法人で存続してことは組織基盤ができていると判断できるとの発言があった。

児玉常務から、特別加盟団体申請基準では JSAF メンバーを 20 名以上要求しているがフォローができていない。団体事業報告の提出と毎年 20 名以上の JSAF メンバーを確認しているのかとの質問があった。

秋山副会長から、事業報告様式は各団体に任せることで問題ない。報告書提出で団体の事務能力が判断できるとの発言があった。

吉田理事から、特別加盟団体登録の際の JSAF メンバー数から増減のチェックはしていないのかとの質問があった。

坂谷理事から、重複メンバーは 20 名以上確保した上で、団体メンバー構成は 50 名以上必要とするような規定に今後考慮していただきたいとの発言があった。

倭理事から、特定非営利活動法人ニッポンセールトレーニング葉山は、JSAF レディース委員会主催のエンジョイセーリングで毎年ご協力いただいているとの発言があった。

承認された。

## <協議事項>

### 1) JSAF 表彰規程細則の改定について

庄司理事から資料に基づき、JSAF 表彰規程細則の改定について提案があった。

平成 21 年度改訂では、感謝状の取り扱いについて要望があった。①国体や大きな国内大会に尽力した地元関係団体に感謝状を渡したい。②感謝状の贈呈は、閉会式などタイムリーな時期としたい。要望を受けて、JSAF 表彰規程第 2 条（表彰の種類）8 項に「感謝状」の内容規程があるため、運用を明確に細則追記で対応する。また、JSAF 定期表彰の種類と対象者概要を各委員会と協力体制を整えた表を作成したとの発言があった。

児玉常務から、機動的で自由度があることが必要であるとの発言があった。

秋山副会長から、国体表彰は時間がかかることから、中途半端な表彰は控えるべきであるとの発言があった。

河野副会長から、直接か贈呈、郵送による贈呈か、方法も考えていただきたいとの発言があった。

## 2) 理事会のあり方

前田専務理事から、冒頭、山崎会長の挨拶で発言いただいた、3月評議委員会で評議員各位から活発なご意見から、各水域のハーバー問題、国体フルエントリー問題、連盟80周年記念などをテーマに、理事各位から自由討議をいただき、理事会の質を高めていきたいとの発言があった。

山崎会長から、10年前に会長職を引き受けてから、理事会に提案いただく議題はほとんど変化はない。理事会各位の本質は聞けず、手続き的なことに終始している。セーリング界は広範囲な活動から止むを得ないと感じるが、今理事会では各位から本音の議論をいただきたいとの発言があった。

西岡副会長から、理事会の為すべきことが不明で、組織の方向性が不透明である。連盟の最大責任である普及活動ができていないことに疑問を感じる。まず役割の明確化を図ることであるとの発言があった。

斎藤理事から、世界に誇れるオリンピックセーラーや現役セーラーの現場レベルの意見を反映できる組織としたい。日本人セーラーの問題として、体格がいい選手の育成ができない環境に思われることから、国体やユースなどの対策も必要であるとの発言があった。

豊理事から、北海道においてもレース志向のセーリング人口が減っている。水域の分け方に工夫が必要ではないか。活動時期にも温度差があり、理事会の回数・開催時期もご検討いただきたい。加盟団体主催レースでは、クルー乗艇資格をJSAFメンバー登録とするよう検討しているが、メンバーメリットで頓挫する。JSAFはメンバー一人一人をもっと大事にするべきであるとの発言があった。

中村理事から、各都道府県連単位でメンバー増強の仕組みを策定し、メンバーメリットを打ち出し、ステイタスを高めるように、理事会は方向性を示すことが大切である。広報活動の一環として、J-SAILINGは高校生以下にも配布する。選手間の連携や連盟各委員会間の連携をもっと図るように、理事会が指導するとの発言があった。

坂谷理事から、外洋団体もメンバー減少は否めない。外洋東海では、JSAF艇所有者が乗艇したレースは2名までメンバー扱いとして、その後メンバーに吸い上げる方法をとっている。メンバーメリットとして、メンバー証を提示すれば、割引価格で購入できるようにハーバーや販売店に働きかけをしている。また、漁業組合と連携してイベントを開催し、メンバー獲得を図っているとの発言があった。

児玉常務から、根幹としてのJSAFの方向性を議論すべきで、RRS、育成、強化は専門委員会で努力していただきたいとの発言があった。

山崎会長から、理事各位が抱えている問題は個々に異なることは理解している。まず、共通の問題意識が必要である。連盟の方針は、普及・文化・勝利に集約されているとの発言があった。

西岡副会長から、連盟理念の下に、事業にプライオリティーをつけて、理事会全体の整合性や判断をしていくシステムが必要であるとの発言があった。

庄司理事から、公益法人改革作業を鑑みると、連盟の根幹的な活動が理解できる。中央と地方での相違と共通課題を理解しやすいように提案していくと JSAF の骨格が見えてくるのではないか。セーリング界は広範囲で複雑な組織であるとの発言があった。

倭理事から、連盟理事会の数期間は改善が進んでいる。女性の地位が JSAF では確保されてきた。オリンピック経験者が理事会に関与が少ないことは残念であるとの発言があった。

小山（泰）理事から、セーリングスポーツは生涯スポーツと認識している。感謝の気持ちや挨拶ができないセーラーが増えてきているが、教育が必要であるとの発言があった。

河野副会長から、過去の理事会を振り返ると価値のある会議になってきた。理事会は決定機関であることから、形式的なことから実質的なことまで決定していかなければならない。JSAF は一人でも多くの人にセーリングを通じて楽しんでいただくことが目的と思うが、そのために何ができるかである。JSAF の活動は、委員会と地域が担っている。理事会は抽象的であるとの発言があった。

秋山副会長から、理事会はテーマを絞って、目標を定め、各理事が役割を分担し、成果を見極めることが必要であるとの発言があった。

山下理事から、理事の役割は、各委員会から提案された議題を承認していくことと理解している。琵琶湖におけるハーバー問題では、JSAF や県連では県民に訴えることもできないとの発言があった。

河野副会長から、JSAF の役割のひとつに、活動家を増やすことがある。セーリングメンバー増加には、ジュニアからどのように繋げられるクラブや地域活動ができるかであるが、国内のクラブは発達していないし、広報活動もできていない。メンバー増強の成功例を示すことも大切である。メンバーメリットの一環として、クレジット機能付帯のメンバー証作成も考慮したが、全国販売店でのディスカウントや NA ブランドの開発も考慮していきたいとの発言があった。

山崎会長から、活発なご意見をいただき、今後も議論の場を設定したいとの御礼があった。

## <報告事項>

### 1) 特別加盟団体名称変更について

前田専務理事から資料に基づき、特別加盟団体名称変更について報告があった。

「特定非営利活動法人ヨットエイドジャパン」から、「特定非営利活動法人日本障害者セーリング協会」に名称変更が認証されたとの発言があった。

秋山副会長から、名称変更に伴って、他の障害者団体との調整はできているのかとの発言があった。

## 2) 公益法人改革検討プロジェクト

庄司理事から資料に基づき、公益法人改革 3 法施行への対応について報告があった。

平成 22 年 3 月 18 日、内閣府企画官との打合・説明を踏まえて、移行認定申請時期をなるべく前倒しで申請したい。具体的には、本年 4 月カヌー協会認可内容を参照に、定款案を提示ならびに JSAF 事業区分の再定義作業を先行させ、内閣府担当官との事前相談を本年 6 月に開始する。申請時期は、平成 23 年 10 月を目標とし、本年 5 月理事会で問題点を整理し、6 月評議員会で確認したいとの発言があった。

河野副会長から、理事会・評議員会における委任状が認められないことから、現状の JSAF 評議員数を減らすのは、各団体・水域から JSAF 参画に不満がでないよう、現状の評議員等に確認が必要である。できるだけ多く参加できる組織であることが望ましいとの発言があった。

児玉常務から、公益法人改革のイメージが把握できていないことから、評議員各位に全体像を早急に提示したほうが良いとの発言があった。

小山（泰）理事から、広報活動が重要であるとの発言があった。

庄司理事から、まず理事会におけるポリシーを優先させたいとの発言があった。

河野副会長から、意思決定機関が評議員会になることから、理事会決定より、評議員各位にご意見をいただきたい。優先していただきたいのは、現状の評議員数を減らさないで、評議員各位の出席が可能な模索していただきたいとの発言があった。

青山常務から、6 月評議員会にはできるだけ分かりやすい具体案を提案するべきであるとの発言があった。

児玉常務から、現状の理事会数を評議員会レベルとして意思決定機関を小さくし、JSAF に参画できる機能機関は別途方法で設定することが望ましいとの発言があった。

秋山副会長から、評議員を選任するバックグラウンドを重要視することが大切であるとの発言があった。

西岡副会長から、連盟決定が必要な最小限の議題は、人事・事業計画・予算・定款である。現状の連盟会議は大勢の関係者を巻き込んで決定していることから、テーマを絞った議案を検討するべきであるとの発言があった。

## 3) レディース委員会報告

倭理事から資料に基づき、レディース委員会報告があった。日本オリンピック委員会の女性スポーツ専門委員会は、スポーツ界における女性の地位向上、オリンピック選手のセカンドキャリア指導などを図るため、年 3 回会議が開催されている。去る 3

月 16 日 JOC 会議で、平成 22 年国民体育大会で柔道やバレーボール競技にチャイルドルーム設置を実現したい意向を受けて、先駆者としてのセーリング連盟は過去におけるチャイルドルームが高い評価を受け、経緯説明をしたとの発言があった。

#### 4) 指導者委員会報告

小山（泰）理事から資料に基づき、平成 21 年度指導者委員会活動成果について報告があった。①バッチテストは、長年懸案だった学科試験問題の改定を行った。②公認コーチ養成講習会は、27 名の認定が予定されている。③指導者研修会は、ジュニアアカデミー委員会と研修会を開催した。④講習会用機材の整備をしたとの発言があった。

#### 5) 国体委員会報告

前田専務理事から資料に基づき、第 65 回国民体育大会千葉大会における中央派遣役員レース委員会推薦者・プロテスト委員会推薦者および第 66 回国民体育大会山口リハーサル大会における中央派遣役員レース委員会推薦者・プロテスト委員会推薦者について報告があった。

#### 6) アジアセーリング連盟総会報告

前田専務理事からオリンピック特別委員会の斎藤愛子委員が出席した資料に基づき、第 23 回アジアセーリング連盟（ASAF）会議について報告があった。3 月 26 日、中国で開催され。2010 年アジア大会状況、第 15 回アジア選手権などの活動報告があったとの発言があった。

#### 7) 外洋艇推進グループ報告

児玉常務理事から資料に基づき、外洋艇推進グループ報告があった。

①平成 22 年度外洋艇の国際レース招待状・参加要請状は、9 月中国・日照開催の中日韓フレンドシップレガッタ、11 月香港・深川開催のチャイナカップ、中国・青島開催のメイヤーズカップが届いている。賞金レースもあり、参加希望チームを公募する。また、平成 23 年 9 月 10～17 日、米国ニューポート開催の NYYC インビテーションナルカップの招待状が届いた。②国際 VHF 無線の普及のため、現在の無線局加入料金及び利用料金を無料とし、レース支援艇にも発行する。発行業務は専用 Web サイトを作成し、外洋艇登録もできるようにしたとの発言があった。

吉田理事から資料に基づき、IRC 申請の推移について報告があった。4 月 10 日現在、IRC 申込は 222 艇で順調に推移している。本年度は、IRC 登録 300 艇・収入 400 万円を見込んでいる。レースシーズン前半が証書発行作業のピークで、IRC 委員会内作業も限界であるとの発言があった。

## 8) セーリングスピリッツ級クラス規則の改定

秋山副会長から資料に基づき、セーリングスピリッツ級のマイラーセール採用について報告があった。平成 16 年覚書第 8 条に基づき、3 種目以上採用になった場合は、同価格でマイラーセールを標準艀装とする条件であったが、平成 19 年当時は、厳しい状況であった。平成 22 年度から同価格販売の提案があり、セーリングスピリッツ協会として、マイラーセール採用を決定したとの発言があった。

奥村理事から、各地域で財政的問題があるとの書面による意見提出があった。

秋山副会長から、同価格で販売することで理解いただきたい。また、クラスルールや艇完成度を向上させることの一端も担っているとの発言があった。

## 9) レース主催・公認・後援願い

前田専務理事から資料に基づき、共同主催・公認・後援願いについて報告があった。1 大会共同主催、1 後援について認可したとの発言があった。

## 10) 平成 21 年度 3 月末日メンバー登録数報告

前田専務理事から資料に基づき、平成 21 年度メンバー登録数について報告があった。総合計 10,191 名で前年度比較で微減したとの発言があった。

## 11) 平成 21 年度 2 月末予算管理月報

斎藤理事から資料に基づき、平成 21 年度 2 月末予算管理月報について報告があった。平成 21 年度連盟決算における事業費等計上のため、各委員会はすみやか精算をしていただきたい。また、本年度会計で消費税区分の見直したため、租税公課支出（消費税）について若干増が見込まれるとの発言があった。

## 12) 平成 21 年度通常（第 2 回）理事会議事録（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成 21 年度通常(第 2 回)理事会議事録（案）について報告があった。

## 13) 平成 21 年度第 2 回評議員会議事録（案）

前田専務理事から資料に基づき、平成 21 年度第 2 回評議員会議事録（案）について報告があった。

<その他>

## 1) B&G 財団” Water Safety NIPPON” 水の事故ゼロ運動推進協議会設立

前田専務理事から資料に基づき、B&G 財団” Water Safety NIPPON” 水の事故ゼロ運動推進協議会について報告があった。平成 22 年 3 月 24 日山崎会長も出席し、日本財団ビルにおいて 7 団体を発起人とした設立記者発表会が行われたとの発言があった。

## 2) 平成 23 年度叙勲候補者の推薦

前田専務理事から、平成 22 年 3 月末日締め切りで、東京都から日本体育協会へ藤沢誠一氏を推薦したとの報告があった。

## 3) セーリング経験者の教員就職について

河野副会長から資料に基づき、セーリング経験者の教員就職について報告があった。セーリングの普及には、中学・高校でのヨット部活動の増大が望まれるが、教員等指導者の不足から廃部がもたらされている。このことを憂慮して JSAF は関係諸機関団体と協力して、セーリング経験者の教員登用の活動をするため、連絡協議会を設置する。スタッフとして各団体から教育関係者の推薦をいただきたいとの発言があった。

## 4) ISAF レースマネジメント・ジャッジセミナー予定

前田専務理事から資料に基づき、ISAF レースマネジメント及びジャッジセミナーについて報告があった。各団体等で出席希望者いれば連絡いただきたいとの発言があった。

## 5) その他

①坂谷理事から、沖縄東海レースについて状況報告があった。4 月 29 日沖縄県宜野湾スタートで参加 12 艇となった。OC トラッカーシステムの導入で、全艇オンタイムで位置が把握できるとの発言があった。

②栗原監事から、千葉国体パンフレットならびに記念バッチの配布があった。

平成 22 年度臨時(第 1 回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成 22 年 4 月 10 日

議 長 会 長 山 崎 達 光

議事録署名人 理 事 庄 司 一 夫

議事録署名人 理事 吉留容子